

千葉国際芸術祭2025 実施報告書

ち

千葉国際芸術祭 2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

千葉国際芸術祭実行委員会

令和8年7月

INDEX

目次

- 1 千葉国際芸術祭2025実施概要……………P 2 ～P 6
 - 2 本会期アートプロジェクト一覧……………P 7 ～P 9
 - 3 本会期アートプロジェクト実施概要……………P 1 0 ～P 1 9
 - 4 広報実績……………P 2 0 ～P 2 2
 - 5 市民の反応について……………P 2 3
 - 6 千葉国際芸術祭2025の評価……………P 2 4 ～P 2 6
- 【参考】
令和 5 ～ 7 年度収支決算、実行委員会名簿…… P 2 7 ～P 3 0

1 千葉国際芸術祭2025実施概要－①開催概要

事業名		千葉国際芸術祭2025
目指す姿		芸術祭に参加する方々が歴史文化自然などの千葉市の地域の魅力を再認識し、共有することで、参加した一人ひとりの創造性がひらかれ、地域の新たなつながりを生み、地域そのものの活力と創造性が高まることを目指す。
コンセプト		ちから、ひらく。
集中展示・発表期間		令和7年9月19日（金）～ 令和7年11月24日（月・祝）
主催		千葉国際芸術祭実行委員会 （千葉市、千葉商工会議所、千葉市文化連盟、公益財団法人千葉市文化振興財団、公益財団法人千葉市教育振興財団、千葉市美術館、公益社団法人千葉市観光協会、千葉テレビ放送株式会社、株式会社千葉日報社、日本放送協会千葉放送局、千葉都市モノレール株式会社、国立大学法人千葉大学、株式会社千葉銀行、東日本旅客鉄道株式会社千葉事業本部）
開催規模	参加アーティスト数	32組（うち招へい:18、海外公募:7、千葉ゆかり:7）
	プロジェクト数	37プロジェクト
	会場数	41会場

総合ディレクター	中村政人（東京藝術大学美術学部絵画科 教授）
寄付・協賛・特別協力	■ 寄付 株式会社千葉銀行、モデン工業株式会社、株式会社乃村工藝社、竹石産業株式会社、株式会社京葉銀行、株式会社富澤商店 ■ 協賛 株式会社地域新聞社、京成バス株式会社、京成バス千葉セントラル株式会社、京成バス千葉イースト株式会社、西千葉レジデンスアベニュー、株式会社千葉センシティ、有限会社山崎商事、西尾レントオール株式会社、東日本旅客鉄道株式会社千葉事業本部、株式会社トミオ、塚本総業株式会社、独立行政法人都市再生機構 ■ 特別協力 株式会社マイキー、国立大学法人千葉大学、千葉都市モノレール株式会社
実施エリア	① 千葉駅周辺エリア ② 市場町・亥鼻エリア ③ 千葉市役所周辺エリア ④ 西千葉エリア ⑤ 千葉公園周辺エリア ⑥ 海浜エリア ⑦ その他エリア（花見川区役所、花見川団地、千葉市動物公園、千葉県こども病院）
ロゴ	

1 千葉国際芸術祭2025実施概要－【参考】実施エリア



1 千葉国際芸術祭2025実施概要－②本芸術祭の特徴

市民参加

- 市民一人ひとりが主体となり、誰でも多様なかたちで芸術祭に参加できる「市民参加型」となっている。
- 参加の形は、作品制作、ワークショップ、プロジェクトへの協働、鑑賞・体験、リサーチ、ドネーション、トークイベントなど多様である。



アートプロジェクト

- 市民や来訪者が表現や対話のプロセスに主体的に関わる「体験重視型」の芸術祭で、その中核となるのが「アートプロジェクト」であり、アーティストの制作プロセスに人々が関わり、対話や協働を通じて新たな関係や価値を生み出す。



アーツフィールド

- 特定のメイン会場を設けず、日常の中に埋もれがちな都市の隙間、空き店舗、公共空間など、地域の魅力を備えた知られざる場所をアーティストの視点で掘り起こし、アートプロジェクトの拠点（アーツフィールド）として活用する。



1 千葉国際芸術祭2025実施概要－③実施体制

千葉国際芸術祭実行委員会

- 芸術祭の計画を策定し、事業を推進する主体として設立された、自治体、公益法人、大学、商工会議所、地域の企業等からなる組織（事務局：千葉市文化振興課）
- 事業の主体として機能

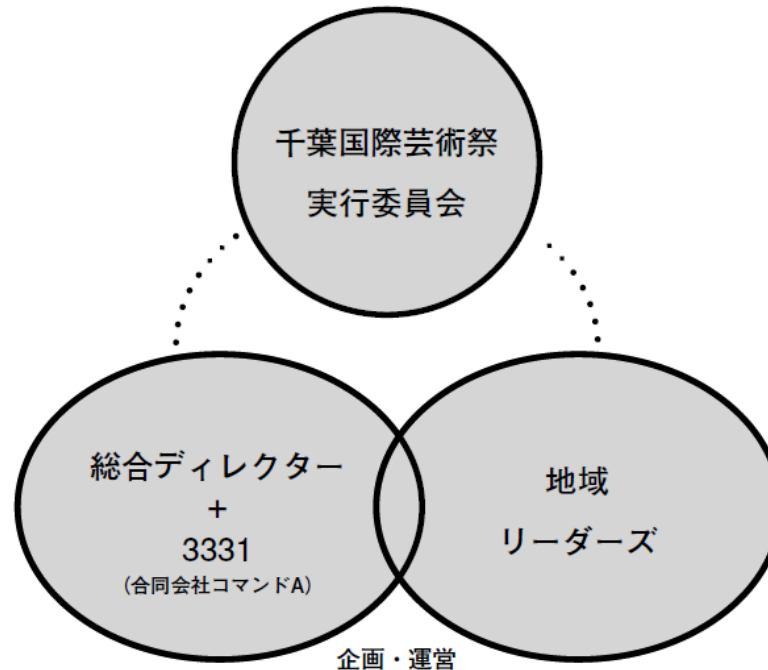
総合ディレクター＋3331（合同会社コマンドA）

- 総合ディレクターを中心とし、アート分野における専門性と豊富な経験を活かして、芸術部門全体の統括を行い、アーティストの招聘や企画構成、運営等において中核的な役割を担う

地域リーダーズ

- 千葉市在住者を中心とする専門人材チームであり、アート、デザイン、広報等の分野で実務的・創造的な貢献を行う

体制図



1 千葉国際芸術祭2025実施概要－④参加者等の実績

No	分類	本会期（令和7年度）	プレ期間	
			令和5年度	令和6年度
1	参加者	➤ 約203,000人（集中展示期間の推計） ➤ うちワークショップ参加者数：2,813人（うち子ども1,472人）	➤ 1,328人	➤ 7,479人
2	プロジェクト実施	➤ アートプロジェクト数：37プロジェクト ➤ ワークショップ：延べ119回	➤ アートプロジェクト数：5プロジェクト	➤ アートプロジェクト数：12プロジェクト
3	参加アーティスト	➤ 32組（うち招へい:18、公募:海外7、千葉市ゆかり7）	➤ 4組	➤ 8組
4	ボランティア	➤ 登録：240人（うち実参加者数：133人）		
5	地域リーダーズの事業参画人数	➤ 23人		
6	経済波及効果	➤ 約25億円※		
7	SNS・メディア	➤ SNSフォロワー総数：7,395人（X：378人、Instagram：6,397人、Facebook：364人、Youtube：76人、LINE：180人、） ➤ メディア掲載数：約140件（全国紙、地方紙、地域のフリーペーパー、美術関係のウェブ媒体、日本テレビ（ZIP!）、NHK（首都圏ネットワーク）、千葉テレビ、J:COM等）		

※平成27年度千葉市産業連関表（187部門表）により算出

2 本会期アートプロジェクト一覧①

No	アートプロジェクト名	アーティスト	エリア	会場
1	Secret people（秘密の人々）	アレクセイ・クルブニク	千葉駅周辺	そごう千葉店正面入口前、
2	PSYCHOBUILDING®	グレゴリー・マース&ナヨンキム	千葉駅周辺	塚本大千葉ビル（3F）、塚本千葉第三ビル（B1F）、そごう千葉店 地階センシティガーデン
3	33年後のかえる	藤浩志	千葉駅周辺	センシティタワー南アトリウム
4	STATION to STATION	スロー・アート・コレクティブ	千葉駅周辺	千葉都市モノレール 千葉駅（2F）
5	ちから、ちへ	宮本はなえ	千葉駅周辺	ペリエ千葉
6	第二副都心_観光案内所	第二副都心	千葉駅周辺	ウェストリオ2（2F）等
7	I WISH TOMORROW	マシャ・トラヴリアニン	千葉駅周辺	富士見二丁目空き地
8	Tele-Interference Counterpoints (in Chiba)	上野悠河	千葉駅周辺	第一山崎ビル（9F）
9	対話について	前島悠太	千葉駅周辺・西千葉	第一山崎ビル（屋上）、緑町駐車場跡地ほか
10	Made to Malfunction in Chiba（千葉で壊れるために生まれた）	サイモン・ウェッテム	千葉駅周辺	第二山崎ビル（8F）
11	千葉シティゲームウィーク	シー・ユシン	千葉駅周辺	文化堂ビル 1F ショーウィンドウ、市内各所
12	千葉片片採集記	諏訪部佐代子	千葉駅周辺	旧パスタハウス
13	ゴロゴロの風景 2025_Chiba City	地村洋平	千葉駅周辺	千葉神社旧お焚き上げ場
14	Daub!	水口理琉	千葉駅周辺	旧市原屋
15	House of Homy	宇治野宗輝	千葉駅周辺	旧診療所
16	「広告」	箭内道彦	市場町・亥鼻	千葉市消防局・中央消防署（セーフティーちば）
17	パラレルワールド	沼田侑香	市場町・亥鼻	千葉都市モノレール県庁前駅（改札内）

2 本会期アートプロジェクト一覧②

No	アートプロジェクト名	アーティスト	エリア	会場
18	ちばがい対話の時間	ちくわ部	市場町・亥鼻	アーツうなぎ
19	キメラ遊物店／アーツうなぎ	岩沢兄弟	市場町・亥鼻	アーツうなぎ
20	移動式縁側	チャール・チャール・エージェンシー	市場町・亥鼻	つくるにわ、市内各所
21	Words of Light（光の言葉）	鈴木のぞみ	市場町・亥鼻	旧千葉亥鼻郵便局
22	脱皮的彫刻	高嶺格	千葉市役所周辺	千葉市役所
23	アートアンデパンダン展	市民・作家等（出品者）	千葉市役所周辺・海浜	千葉市役所、旧高洲第二中学校体育館
24	タイムラグ・パーク	－	千葉市役所周辺	国道357号上部空間
25	わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！	栗原良彰	千葉市役所周辺	千葉ポートタワー 光の庭
26	家族との晩ご飯へ贈られる絵画	アリーナ・ブリュミス & ジェフ・ブリュミス	西千葉・千葉駅周辺	ちばぎんコンサルティングプラザ千葉、西千葉レジデンス アベニュー（仮囲い）
27	臥遊-ガード下神殿-	伊東敏光	西千葉	JR西千葉駅高架下
28	まちばのまちばり	西尾美也	西千葉	JR総武線高架下 西千葉公園横等
29	景色の変遷における場所性の観測	手と具	西千葉・千葉公園周辺・その他	黒砂台空き地、信濃屋ビル（1F）、千葉市動物公園、千葉大学西千葉キャンパス
30	walkingpractice™ code_bridge [spec_chiba]	檜皮一彦	西千葉・千葉駅周辺	千葉大学西千葉キャンパス、そごう千葉店 地階センシティガーデン
31	Giant Micro Plastic	安西剛	海浜	稲毛記念館等
32	Rift in Repetition	加藤翼	海浜	幸町団地（三角地）、幸町公民館図書室等
33	天馬船プロジェクト2025／花見川	天馬船プロジェクトチーム	その他	花見川団地商店街北街区、花見川

2 本会期アートプロジェクト一覧③

No	アートプロジェクト名	アーティスト	エリア	会場
34	街に巡る優しさ	チャン・ジエ（リビルド・ラボ）	その他	花見川区役所、一部千葉市役所
35	今昔絵有動物借景	TMPR	その他	千葉市動物公園、千葉県こども病院（非公開ワークショップ）
36	おともといっしょ	西原珉	その他	千葉県こども病院（院内ワークショップ）
37	ラーニング・プログラム	案内・解説：中村政人（総合ディレクター）	市内各所	市内各所

3 本会期アートプロジェクト実施概要①

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
1	Secret people(秘密の人々)	アーティスト：アレクセイ・クルプニク 場所：そごう千葉店正面入口前 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年6月リサーチ、8月写真撮影、9月プリント制作・展示準備 概要：都市機能を支える人々の姿に焦点を当てたドキュメンタリー写真プロジェクト。普段見過ごされがちな労働や生活の現場を可視化し、都市が誰によって成り立っているのかを問いかけた。	3	33年後のかえる	アーティスト：藤浩志 場所：センシティタワー南アトリウム 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2024年2月リサーチ、2024年3～11月・2025年5～11月ワークショップ、2025年7月リサーチ・会場決定、9月制作・展示 概要：遊ばなくなったおもちゃを交換する「かえっこバザール」を重ね、引き取られなかった大量のプラスチック玩具を新たな展示へ転換した。循環、廃棄、ものの価値を考えるとともに、親子参加型の文化体験を生み出した。
2	PSYCHOBUILDING®	アーティスト：グレゴリー・マース&ナヨンキム 場所：塚本大千葉ビル(3F)、塚本千葉第三ビル(B1F)、そごう千葉店地階センシティガーデン 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年6月～会場調整・制作・設営、9月7日さんばしひろばにてパフォーマンス 概要：千葉駅周辺の複数会場に、オブジェ、インスタレーション、パフォーマンスを展開した。民芸品、ぬいぐるみ、元美容室の空間などを組み合わせ、都市の中に独創的な景観と心理的な空間体験をつくり出した。	4	STATION to STATION	アーティスト：スロー・アート・コレクティブ 場所：千葉都市モノレール千葉駅2階、千葉県こども病院（非公開） 展示期間：2025年9月19日～11月24日（千葉駅）、2025年9月24日～2026年1月11日（こども病院） 準備期間：2024年2月リサーチ、2024年3～4月ブレ企画、2025年5月～リサーチ・展示準備・制作。 概要：竹や紐を用いた可変的な構造物を、日常的に人が行き交う駅空間に展開した。市民が紐を結び、編み込むことで作品が日々変化し、駅を通過空間から創造と交流の場へとひらいた。こども病院では、病室から出られない子どもにも創作体験を届けた。

3 本会期アートプロジェクト実施概要②

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
5	ちから、ちへ	アーティスト：宮本はなえ 場所：ペリエ千葉 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年5月参加施設募集、6月参加施設決定、7～8月施設での作品制作（施設でのワークショップ）、9月展示準備 概要：千葉市内10カ所の障害福祉施設と協働し、芸術祭の象徴である「ち」の形をした11個のモニュメントを制作した。障がいのある人の創造性や施設での日常を、駅直結の商業空間で多くの人にひらくプロジェクトとなった。	7	I WISH TOMORROW	アーティスト：マシャ・トラヴリアニン 場所：富士見二丁目空き地 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年5月リサーチ、6～8月場所調整・LED手配・願いごと収集、9月設置 概要：市民の願いごとをLED表示により公共空間に可視化した。空き地に浮かぶ匿名の言葉を通じて、通行者が未来への思いや他者の願いに触れ、都市の中に対話と共感の場を生み出した。
6	第二副都心_観光案内所	アーティスト：第二副都心 場所：ウエストリオ2 2階等 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年4月計画準備、5月～7月リサーチ・ワークショップ、8月～作品制作・展示準備、9月ワークショップ開催 概要：美浜区を中心に、埋立地や団地に残る暮らしの記憶や資料を『生活遺産』として収集し、まち歩きやワークショップを通じて展示・発信した。観光案内所という形式により、住民とともに地域のアイデンティティと日常の価値を捉え直した。	8	Tele-Interference Counterpoints (in Chiba)	アーティスト：上野悠河 場所：第一山崎ビル（9F） 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年7月～8月蛍光灯等の回収、イベント開催、9月回収した蛍光灯の集計、展示準備 概要：ラジオと回収した蛍光灯を用い、光と音によるインスタレーションを展開した。蛍光灯製造終了を背景に、消えゆく物質の記憶や都市のノイズを体験させた。

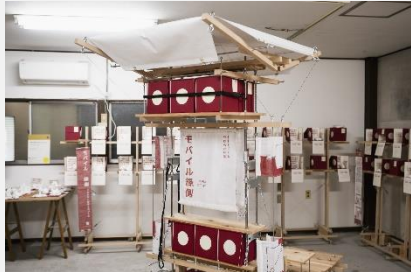
3 本会期アートプロジェクト実施概要③

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
9	対話について	アーティスト：前島悠太 場所：第一山崎ビル（屋上）、緑町駐車場跡地、千葉ポートパーク 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年6月～9月ワークショップ（複数回） 概要：市民との対話や落書きの痕跡を布に残し、それを旗として縫い合わせて都市空間に掲げた。対話の時間や身体性を可視化し、新たな対話を生む装置とした。	11	千葉シティゲームウィーク	アーティスト：シー・ユシン 場所：文化堂ビル1Fショーウィンドウ（映像展示）、市内の公園・橋・駅等（ゲーム実施） 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年4月リサーチ、7月～9月都市構造物を活用したゲームの設計 概要：公園、橋、駅など都市の構造物や公共空間を利用した複数のゲームを市内各所で実施し、その記録映像等を文化堂ビルのショーウィンドウで展示した。日常の行動や都市空間の使い方を遊びとして捉え直し、参加者の行動を通じて都市と社会の構造を観察する試みとなった。
10	Made to Malfunction in Chiba（千葉で壊れるために生まれた）	アーティスト：サイモン・ウェッテム 場所：第二山崎ビル（8F） 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年6～7月市民から家電や素材を収集、制作・設営準備 概要：市民から提供された古い家電や電子機器を再構成し、人の存在や動きに反応するインスタレーションとして提示した。家電にまつわる記憶や、故障、消費、陳腐化、再利用について考える作品となった。	12	千葉片片採集記	アーティスト：諏訪部佐代子 場所：旧パスタハウス 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年7月まち歩きワークショップ、8月粘土作品の野焼き（昭和の森）、9月展示準備 概要：市民とともにまちを歩き、都市の痕跡を粘土で採集・焼成することで、日常の中にある微細な時間や記憶を作品化した。変化し続ける都市の断片を記録するプロジェクトとなった。

3 本会期アートプロジェクト実施概要④

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
13	ゴロゴロの風景 2025_Chiba City	アーティスト: 地村洋平 場所: 千葉神社旧お焚き上げ場 展示期間: 2025年9月19日～11月24日 準備期間: 2025年5～6月リサーチ、7月～8月砂採取・ガラス制作、8月撮影・編集、9月展示準備 概要: ガラス製のタイヤを転がしてまちを歩き、都市の微かな痕跡や記憶を記録する体験型プロジェクト。身体を通じて、普段見過ごしている路面や風景を捉え直した。	15	House of Homy	アーティスト: 宇治野宗輝 場所: 旧診療所 展示期間: 2025年9月19日～11月24日 準備期間: 2025年1～9月リサーチ、会場清掃、素材収集、作品制作・組立、展示準備 概要: 家電、楽器、家具などを組み合わせたサウンドスケープチャーターを通じて、20世紀の家庭生活や消費文化、会場周辺に残る軍都千葉の記憶を音と物質で表現した。会期中にはライブパフォーマンスも行われ、作品が稼働する場面を来場者と共有した。
14	Daub!	アーティスト: 水口理琉 場所: 旧市原屋 展示期間: 2025年9月19日～11月24日 準備期間: 2025年5～6月リサーチ、8月試作、9月から会期中にかけて制作 概要: 閉店した青果店のシャッターを日々開け、制作を継続することで、近隣住民や下校中の小学生が自然と集まる場を生み出した。旧店舗に残る記憶を、巣づくりのような制作行為を通じてひらいた。	16	「広告」	アーティスト: 箭内道彦 場所: 千葉市消防局・中央消防署（セーフティちば） 展示期間: 2025年9月19日～11月24日 準備期間: 2025年4～9月リサーチ、8月制作、9月設置 概要: 千葉市消防局・中央消防署の壁面に巨大な広告作品を掲出し、警告と広告、公共情報と商業情報の境界を問いかけた。日常的に目にする言葉や情報を、公共施設の外壁に置き直すことで、その意味や受け取り方を考える機会をつくった。

3 本会期アートプロジェクト実施概要⑤

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
17	パラレルワールド 	アーティスト ：沼田侑香 場所 ：千葉都市モノレール県庁前駅（改札内） 展示期間 ：2025年9月19日～11月24日 準備期間 ：2025年7月清掃・ボランティア募集、8月ボランティアモデル撮影 概要 ：長く使われていないモノレール県庁前駅のホームに、市民モデルの人型パネルを設置した。消えた機能と残る場所の記憶を重ね、現実と非現実のあいだにある都市の時間を可視化した。	19	キメラ遊物店／アーツうなぎ 	アーティスト ：岩沢兄弟 場所 ：アーツうなぎ 展示期間 ：2025年9月19日～11月24日 準備期間 ：2025年6～7月設計製作・材料収集、8月制作、9月ワークショップ 概要 ：2014年に閉店した老舗割烹店「うなぎ安田」を、制作・展示・交流の拠点「アーツうなぎ」として再生した。既製品を組み合わせた作品やワークショップを通じて、閉じていた店舗を地域にひらいた。
18	ちばげい対話の時間 	アーティスト ：ちくわ部 場所 ：アーツうなぎ 展示期間（開催日） ：2025年9月27日、11月6日、11月24日 概要 ：文化芸術やまちのことに興味のある方はもちろん、「芸術祭」が自分の生活から遠く感じられる方にもひらかれ、所属や肩書にとらわれず多様な市民が集える場を目指した。外部ゲストの話をきっかけにしながら、参加者同士が身近な話題や社会的なテーマについて語り合い、それぞれの暮らしの楽しさや心地よさを、共に考える機会とした。また、対話のプロセスを通じて、千葉市内で芸術祭を共につくる仲間を育み、地域にゆるやかなつながりを育てていくことも目指した。	20	移動式縁側 	アーティスト ：チャール・チャール・エージェンシー 場所 ：つくるにわ、市内各所 展示期間 ：2025年9月19日～11月24日 準備期間 ：2025年5月リサーチ、8月作品準備、9月～ワークショップ・作品制作 概要 ：移動式の縁側を市内各所に設置し、市民が都市への思いや願いを書き込む参加型の場をつくった。縁側という文化的な装置を手がかりに、静かな対話と新たな公共空間の使い方を促した。

3 本会期アートプロジェクト実施概要⑥

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
21	Words of Light（光の言葉）	アーティスト： 鈴木のぞみ 場所： 旧千葉亥鼻郵便局 展示期間： 2025年9月19日～11月24日 準備期間： 2025年4月～リサーチ、8～9月作品制作・ワークショップ 概要： 旧郵便局などの建物にある穴を通した光像を、カメラ・オブスクラ的な現象（ピンホールカメラの原理）として捉えた。身近な場所にある光の言葉を、市民とともに探し、翻訳し、想像するプロジェクトとなった。	23	アートアンデパンダン展	出品者： 市民・作家等 場所： 千葉市役所、旧高洲第二中学校体育館 展示期間： 2025年9月19日～11月24日 概要： 審査なし・ジャンル不問の市民公募展として実施し、172組385点が出品された。市民が作品を鑑賞するだけでなく、自ら表現者として参加できる場を設け、創造性の基盤を可視化した。
22	脱皮的彫刻	アーティスト： 高嶺格 場所： 千葉市役所 展示期間： 2025年9月19日～11月24日 準備期間： 2025年8月23日、9月3日、9月11日、9月12日に石膏型取り 概要： 市長、関係組織の代表、市民代表等11名の身体を石膏で型取りし、その『抜け殻』を千葉市役所に展示した。行政や組織の役割、権威の継承と変化、市民と行政との関係について考える作品となった。	24	タイムラグ・パーク	場所： 国道357号上部空間 展示期間： 2025年11月1日、11月2日 概要： 国道357号上部空間に仮設的なスケートボードパーク等を設け、スケーター、車椅子ユーザー、音楽・ライブ等が共存する場をつくった。公共空間の多様な使い方とアクセシビリティを体験するプロジェクトとなった。

3 本会期アートプロジェクト実施概要⑦

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
25	わたしの千葉市！テーマパークの模型を作ろう！	アーティスト：栗原良彰 場所：千葉ポートタワー 光の庭 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2023年10月～12月リサーチ、2024年2月～2025年1月ワークショップ、2025年6月～リサーチ・展示準備 概要：小学生を中心に、千葉市の魅力や未来をテーマパーク模型として表現するワークショップを実施した。子どもたちの視点でまちを捉え直し、未来の千葉市像を可視化した。	27	臥遊-ガード下神殿-	アーティスト：伊東敏光 場所：JR西千葉駅高架下 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年6～9月 素材集め、ワークショップ、作品制作 概要：長く使われていなかったJR西千葉駅高架下に、地域の廃材や家具等を用いた巨大な女神像を中心とする神殿を制作した。未利用空間を、祈りや想像の場としてひらいた。
26	家族との晩ご飯へ贈られる絵画	アーティスト：アリーナ・ブリュミス & ジェフ・ブリュミス 場所：西千葉レジデンスアベニュー（仮囲い）、ちばぎんコンサルティングプラザ千葉ショーウィンドウ 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年7月一般公募開始、8月7日～16日家庭訪問・夕食会、8月20日～25日写真プリント・制作、8月26日～30日展示準備 概要：アーティスト夫妻が千葉市内10組の家庭を訪問し、夕食をともにしたお礼として絵画を贈り、その時間を写真に記録した。私的な家庭の時間を公共空間にひらき、日常の親密さや人と人とのつながりを可視化した。	28	まちばのまちばり	アーティスト：西尾美也 場所：JR総武線高架下西千葉公園横等 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年2～10月にワークショップ13回、2025年5月古着の寄附を募集、9月展示準備 概要：地域から集めた古着を使い、市民が即興的に服をつくるワークショップを重ね、13名の市民アーティスト『まちまちテラー』が誕生した。最終日には約160着の作品譲渡会を行い、服を媒介に人とまちの風景を変化させる社会彫刻的な実践となった。

3 本会期アートプロジェクト実施概要⑧

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
29	景色の変遷における場所性の観測	アーティスト：手と具 場所：黒砂台空き地、信濃屋ビル（1F）、千葉市動物公園、千葉大学西千葉キャンパス 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年7～9月ワークショップ 概要：千葉の土器文化に着想し、空き地の土を採取して土器を制作することで、土地と生活の関係を再構築した。均質化する都市の中で、場所固有の素材と記憶を観測するプロジェクトとなった。	31	Giant Micro Plastic	アーティスト：安西剛 場所：稲毛記念館等 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年7月リサーチ・ワークショップ、8月制作開始・設営、9月展示準備 概要：稲毛海岸で採集したマイクロプラスチックを人間大のペーパークラフトとして拡大し、環境問題を身体的に感じられるスケールで提示した。親子参加型ワークショップにもつながった。
30	walkingpractice™ code_bridge [spec_chiba]	アーティスト：檜皮一彦 場所：千葉大学西千葉キャンパス、そごう千葉店地階センシティガーデン 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年4～6月リサーチ、8月ワークショップ、8～9月制作 概要：車椅子ユーザーや千葉大学の学生との協働により、都市の段差や移動上の障壁を捉え直すスロー作品を制作・設置するとともに、古着のアップサイクルにも取り組んだ。アート、実用性、アクセシビリティ、持続可能性を接続するプロジェクトとなった。	32	Rift in Repetition	アーティスト：加藤翼 場所：幸町団地（三角地）、幸町公民館図書室等 展示期間：2025年8月30日引き興し/倒し（パフォーマンス）、9月19日～11月24日 準備期間：2025年6月関係者への交渉、7月団地住民へのインタビュー・構造体設計、8月制作、パフォーマンス 概要：高齢者や外国人住民など多様な人々が暮らす幸町団地を舞台に、住民とともに構造体を引き起こし、倒すパフォーマンスを実施した。団地の多層的な現実と共同体の現在を記録した。

3 本会期アートプロジェクト実施概要⑨

No	プロジェクト名	概要等	No	プロジェクト名	概要等
33	天馬船プロジェクト2025／花見川	アーティスト：天馬船プロジェクトチーム 場所：花見川団地商店街北街区、花見川 展示期間：2025年9月25日～11月22日 準備期間：2024年11月テスト航行①、2025年3月花見川リバーフェスでPR、5月花見川団地商店街区画借入決定、7月花見川団地夏祭りでPR、8月テスト航行②、9月プロジェクト内容変更（河川状況等を踏まえ、タイムレースから展示に変更） 概要：花見川の水辺文化や地域の歴史をリサーチし、花見川団地商店街を拠点に展開した。船や水辺を媒介に、地域の環境意識と商店街での創造的な交流を育てた。	35	今昔絵有動物借景	アーティスト：TMPR 場所：千葉市動物公園、千葉県こども病院（非公開ワークショップ） 展示期間：2025年9月19日～11月24日 準備期間：2025年6～8月リサーチ 概要：千葉市美術館のデジタルアーカイブと千葉市動物公園を結び、過去の美術作品に描かれた動物、絶滅動物、想像上の動物等をAR技術で可視化した。文化資産とデジタル技術、動物園の場をつなぎ、生物や人間を取り巻く環境について考える体験型作品となった。
34	街に巡る優しさ	アーティスト：チャン・ジエ（リビルド・ラボ） 場所：花見川区役所、一部千葉市役所 展示期間：2025年9月19日～10月8日、10月9日台風の影響で作品が損傷・展示中止、11月20日～11月24日作品の一部を千葉市役所にて再展示 準備期間：2025年5～6月設計図面作成、7～8月制作、9月組み立てと塗装、9月19,20日ワークショップ 概要：花見川区役所敷地に環状黒板を設置し、市民が「うまくいかなかった出来事」を共有し、それを励ましの言葉へ変換する参加型作品。公共空間で優しさや支え合いの循環を生み出した。	36	おともといっしょ	アーティスト：西原珉 場所：千葉県こども病院（院内ワークショップ） 展示期間：2025年8月18日～11月9日 準備期間：2024年5月リサーチ、12月ぬいぐるみ制作ワークショップ開催 概要：千葉県こども病院で、子ども、家族、医療関係者がぬいぐるみ制作を通じて創造性を共有した。医療現場において、アートが子どもたちの自己表現や、家族・医療関係者との交流を支える可能性を示す取組となった。

3 本会期アートプロジェクト実施概要⑩

No	プロジェクト名	概要等
37	ラーニング・プログラム	場所：各プロジェクト会場 展示期間（開催日）：2025年11月3日 案内・解説：中村政人（総合ディレクター） 概要：総合ディレクターの中村政人氏とともに、千葉市内の作品展示を巡る鑑賞ツアー「総合ディレクター中村政人と巡る ちばげいツアー」を実施した。本ツアーは、作品を単に鑑賞するだけでなく、総合ディレクターによる解説や参加者同士の対話を通じて、アーティストの思考、作品の背景、街との関係性を深く理解することを目的として実施されたものである。千葉の街を舞台に、アートが日常の暮らしや風景とどのように関わっているのかを考えながら、西千葉エリアから市場町・亥鼻エリアまでを巡った。参加者は、作品を「見る」だけでなく、歩き、聞き、感じ、語り合うことを通じて、アートを体験的に鑑賞する機会となった。



4 広報実績－①主な広報実績

区分	主な内容	実績・補足
チラシ・ポスター等	ポスター、巡るマップ、チラシ、会場案内、デジタルサイネージ等	街なか、各会場、公共施設、商業施設等
HP・SNS	公式HP、X、Instagram、YouTube、LINE、Facebook	SNSフォロワー総数7,395人。内訳は、X 378人、Instagram 6,397人、YouTube 76人、LINE 180人、Facebook 364人。
地域向け広報	市政だより、千葉商工会議所広報誌「夢シティちば」ちいき新聞等	全戸ポスティングの市政だより、ちいき新聞への掲載、千葉商工会議所「夢シティちば」での継続的な掲載。
記者発表等	市役所本庁舎での記者発表会、各会場を巡るプレスツアー	令和7年6月26日に記者発表会、令和7年9月18日にプレスツアーを実施。
メディア掲載	全国紙、地方紙、地域フリーペーパー、美術系WEB媒体、テレビ等	メディア掲載数約140件。NHK、千葉テレビ、日本テレビ、J:COM等。
関連制作物	ロゴを活用した缶バッジをガチャガチャ・ECサイトで販売等	売上：411個／160,777円
その他	千葉都市モノレール「ホリデーフリーきっぷ」芸術祭オリジナルデザイン	

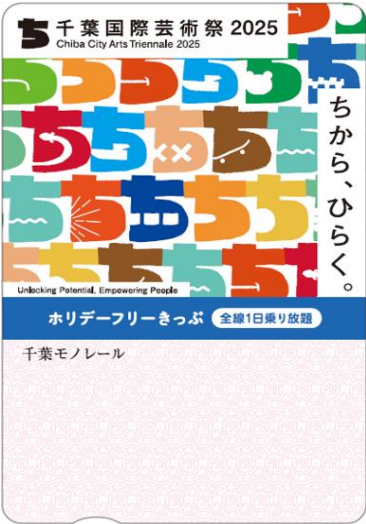
4 広報実績－②実際の写真



デジタルサイネージ@ JR千葉駅



夢シティちば表紙（2025年4月号～12月号継続掲載）



千葉都市モノレール「ホリデーフリーきっぷ」



柱巻広告@千葉都市モノレール千葉駅



チバnews（千葉テレビ・2025年9月19日放送）



「ち」ロゴ缶バッジ



千葉国際芸術祭2025公式HP

4 広報実績－②実際の写真



記者発表会（2025年6月26日）



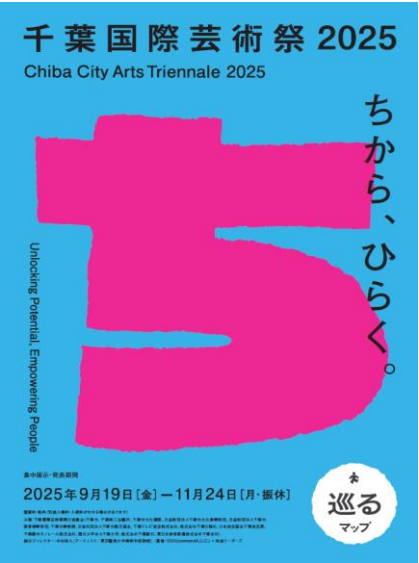
会場案内@旧高洲第二中学校（アートアンデパンダン展）



ちば市政だより9月号



首都圏ネットワーク（NHK・2025年9月10日 放送）



巡るマップ



展示写真@ちばぎんコンサルティングプラザ千葉
（家族との晩ご飯へ贈られる絵画）

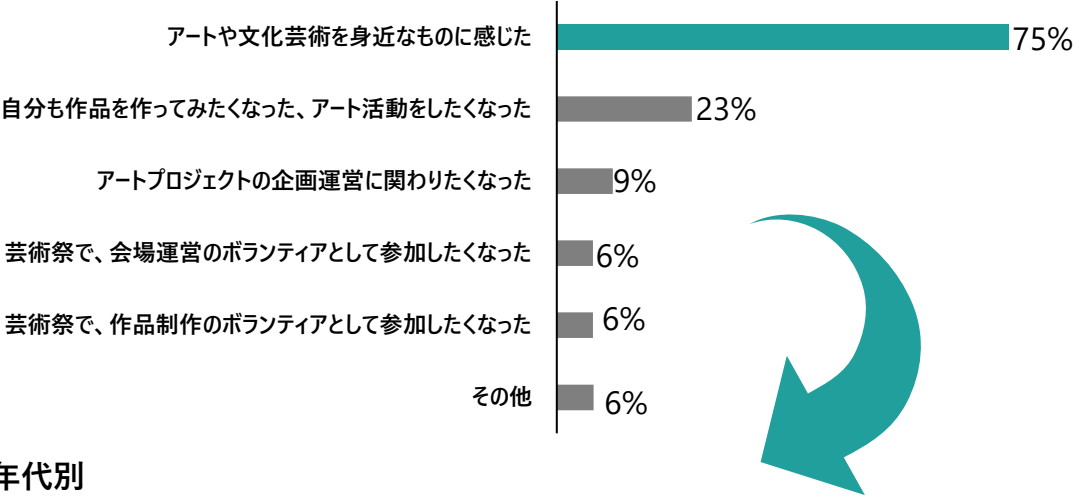


「ち」ロゴ缶バッジ ガチャガチャ@市役所1階コンビニ前

5 市民の反応について

会場内アンケート結果の一部抜粋（有効回答数 N=1,208）

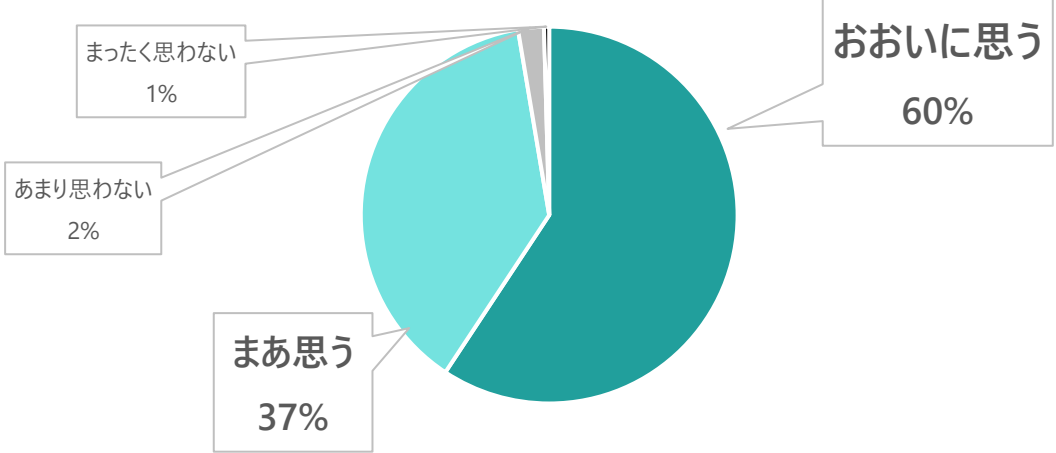
①「千葉国際芸術祭2025に参加してどう感じましたか」（複数回答可）



年代別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
アートや文化芸術を身近なものに感じた	76%	76%	78%	75%	78%	76%	60%	71%
自分も作品を作ってみたくなった、アート活動をしたくなった	44%	35%	20%	24%	22%	11%	10%	5%
アートプロジェクトの企画運営に関わりたくなった	18%	18%	6%	10%	8%	5%	3%	0%
芸術祭で、会場運営のボランティアとして参加したくなった	11%	10%	4%	6%	6%	5%	3%	0%
芸術祭で、作品制作のボランティアとして参加したくなった	11%	7%	3%	6%	7%	6%	2%	0%

②千葉国際芸術祭2025は、千葉市民にとってアートや文化芸術に触れる機会を増やすのに繋がっていると思いますか



感想 (自由記述)

- 新しい視点を得られた。
- 作品の説明を聞いて、初めて伝えたいことが理解できた。
- 見慣れてる街の見慣れない側面に見慣れない物が置いてあってどれも良い。
- 長らく暮らしていて気付かなかった千葉の魅力に気付くことが多々あった。
- ボランティアがみなさんとても親切でよかった。

6 千葉国際芸術祭2025の評価①

千葉市文化芸術振興会議の意見を受けて千葉市作成

まとめ

- 第3次千葉市文化芸術振興計画の推進に対しては、一定の成果が認められる。
- 施策ごとの達成状況には差異があるものの、千葉国際芸術祭2025の開催により、市内各所での事業展開や文化施設以外の場所の活用、多様な主体との連携が進み、市民が文化芸術に親しむ機会の創出や地域の魅力発信、人材・ネットワーク形成に向けた取組みを進める契機となった。
- 一方で、広報の充実や運営体制の強化、アーティスト支援の充実など、今後に向けた課題も確認されたことから、これらの課題に着実に取り組む必要がある。

施策名称	施策の達成状況
施策1 様々な文化芸術を身近に触れる機会の提供	達成した
施策2 文化芸術活動を体験する機会の提供	概ね達成した
施策3 文化芸術情報の幅広い収集と戦略的な発信	一定程度達成した
施策4 つながりを生み出す文化芸術活動の推進	一定程度達成した
施策5 子どもや若者が継続して文化芸術に親しめる機会の提供	一定程度達成した
施策8 美術館所蔵作品の活用	一部達成した
施策9 文化施設以外の場所の活用	概ね達成した
施策10 文化芸術と経済の連携	概ね達成した
施策12 アーティストが集い、活躍の場を広げるための支援	一部達成した
施策13 文化芸術に携わる人材の育成	一定程度達成した

<達成状況について>

達成した・・・施策の趣旨に沿った成果が十分に認められた。

一部達成した・・・施策の趣旨に沿った取組みは実施したものの、成果の広がりには限定的であった。

概ね達成した・・・施策の趣旨に沿った成果がおおむね認められた。

未達成・・・成果は認められなかった。

一定程度達成した・・・一定の成果は認められたが、更なる取組みが期待される。

6 千葉国際芸術祭2025の評価 ②全体評価

千葉市文化芸術振興会議の意見を受けて千葉市作成

No	全体評価
1	市内各所を会場として多彩なアートプロジェクトを展開し、延べ20万人を超える参加者が文化芸術に触れる機会を創出するなど、市民が身近な場所で文化芸術を楽しむ環境づくりに寄与した。
2	商業施設や公共空間など文化施設以外の身近な場所で作品展示やイベントを実施したことにより、市民が日常生活の中で文化芸術に接する機会を広げるとともに、まちなかの新たな魅力発見や回遊促進につながった。
3	本会期では計37のプロジェクトを実施するなど、多様な事業を展開したことにより、市民が参加・鑑賞できる機会を提供したほか、千葉都市モノレール県庁前駅などの未活用空間を活かし、気軽にアートに触れられる場を創出した。
4	「ち」のポスター掲出など、街中での広報展開により、芸術祭の認知度向上が図られた。
5	障害のある方が作品制作から発表までの活動に参加する機会を創出するとともに、千葉駅周辺の商業施設において作品展示を実施したことにより、多くの市民や来訪者が作品や表現活動に触れる機会を提供し、文化芸術活動への参加機会の拡大につながった。
6	病気等により入院している子どもや放課後児童クラブ（アフタースクール）を利用する子どもたちなどを対象としたワークショップを実施し、文化芸術に触れる機会が限られる子どもたちも含め、幅広い子どもたちに創造的な体験を提供した。
7	作品展示エリアの責任者やボランティアなど、現場を支える人材の献身的な関わりが運営を支える重要な基盤となったほか、地域団体、企業、教育機関、商業施設等との連携を通じて、新たな交流やネットワークの形成につながった。
8	千葉市ゆかりの地域リーダーズが会場調整や運営支援などに積極的に関わり、地域に根差したネットワークを活かした多様なプロジェクトの実施につながった。
9	公募に対し世界各国から約600組の応募が寄せられ、海外アーティストの参加も実現したことから、本市の魅力を国内外へ発信するとともに、世界各国のアーティストや作品との接点を創出するなど、国際芸術祭としての意義を示すことができた。
10	来訪者の回遊などにより、約25億円の経済波及効果が推計されるなど、地域経済の活性化にも寄与した。



上記の取組により、第3次千葉市文化芸術振興計画が掲げる「文化芸術に親しむ機会の充実」「市民、企業、地域団体等の参加促進」「文化芸術を通じた地域の活性化」の推進に一定の成果が認められた。また、市民が文化芸術を通じて本市の魅力を再認識し、まちへの愛着や誇りを醸成する機会となった。

6 千葉国際芸術祭2025の評価 ③今後に向けた課題

千葉市文化芸術振興会議の意見を受けて千葉市作成

No	今後に向けた課題
1	参加型プロジェクトの実施により市民が文化芸術活動に関わる機会は広がったことから、今後はより多くの市民が主体的に参加できる取組の充実を図るほか、市民や企業、地域団体等とのネットワークを活用し、より多くの主体が参加しやすくなるように工夫を図る必要がある。
2	ワークショップ等の参加型事業を通じて文化芸術に触れる機会を広く提供してきたが、今後は各展示会場において意図を伝える工夫や周遊しやすい環境づくりなど、来場者の満足度を高める取組を進めるとともに、音楽・演劇などを含めた文化芸術分野への展開も検討する必要がある。また、福祉、教育、経済など他分野との連携を深め、参加機会の拡大や文化芸術体験の充実につなげていく必要がある。
3	市内各所で実施した取組により地域の魅力発信につながったことから、今後も文化芸術と地域資源との連携を深め、回遊性や滞在性の向上につなげていく必要がある。
4	来場者に必要な情報を確実に届けられるよう、広報に関わる人材の確保・育成や、限られた広報資源の効果的な活用を図るとともに、ホームページやSNSの運用強化など、効果的な情報発信に取り組む必要がある。
5	ボランティアや地域リーダーズの活躍により事業運営を支える基盤が形成されたことから、今後も研修や交流機会の充実を通じて担い手の育成・定着を図り、運営体制のさらなる充実につなげていく必要がある。
6	芸術祭をきっかけに本市を訪れる来訪者が見られたことから、今後も文化芸術を通じた来訪機会の創出を図り、交流人口の拡大や地域経済への波及につなげていく必要がある。
7	アーティスト同士の交流促進や創作活動を支える環境整備に取り組むとともに、地域資源や地域課題への理解を深めるためのリサーチ支援の充実を図る必要がある。



本事業を通じて蓄積された人材、ネットワーク及びノウハウを活用し、市民参加や地域連携のさらなる充実を図るとともに、今回得られた成果を継承しながら課題の改善に取り組み、より魅力的な事業へ発展させていく必要がある。

【参考】令和 5 年度 収支決算

■令和 5 年度収支決算

(1) 収入 単位：円

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	摘要
1. 千葉市負担金	30,000,000	30,000,000	
2. 諸収入	0	30	預金利子
合計	30,000,000	30,000,030	

(2) 支出 単位：円

科目	予算額 (C)	決算額 (D)	摘要
1. 事業費	27,435,437	27,435,437	事業企画費、アートプロジェクト、文化芸術とまちづくりプロジェクト、人材育成プロジェクト、会場運営費、会場施工費、会場使用料
2. 広報費	1,364,563	663,537	
3. 事務局運営費	1,200,000	355,292	実行委員会運営等
合計	30,000,000	28,454,266	

収入支出差額	総収入額 (B)	総支出額 (D)	収入支出差額 1,545,764円を千葉市に返還。
	30,000,030	28,454,266	

【参考】令和 6 年度 収支決算

■令和 6 年度収支決算

(1) 収入 (単位 : 円)

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	摘要
1. 千葉市負担金	111,000,000	111,000,000	文化庁補助金 : 34,035,958 円
2. 諸収入	0	29,232	預金利子
合計	111,000,000	111,029,232	

(2) 支出 (単位 : 円)

科目	予算額 (C)	決算額 (D)	摘要
1. 事業費	109,500,000	104,277,214	事業企画費、アートプロジェクト、文化芸術とまちづくりプロジェクト、人材育成プロジェクト、企業連携プロジェクト、会場運営費、会場施工費、会場使用料、広報費等
2. 事務局運営費	1,500,000	410,192	実行委員会運営等
合計	111,000,000	104,687,406	

収入支出差額	総収入額 (B)	総支出額 (D)	収入支出差額 6,341,826円を千葉市に返還。
	111,029,232	104,687,406	

【参考】令和 7 年度 収支決算（案）

■令和 7 年度収支決算（案）

（１）収入 （単位：円）

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	摘 要
1. 千葉市負担金	173,050,000	173,050,000	文化庁補助金：60,000,000円
2. 協賛金	1,850,000	1,850,000	民間企業 3 社、団体 1 団体
3. 諸収入	0	243,408	預金利子 82,631円、収入（缶バッチ） 160,777円
合計	174,900,000	175,143,408	

（２）支出 （単位：円）

科目	予算額 (C)	決算額 (D)	摘 要
1. 事業費	164,400,000	157,664,210	ディレクション業務、企画運営業務、会場運営業務、広報物制作業務、発送代行費、展示延長費ほか
2. 事務局 運営費	10,500,000	9,906,803	実行委員会運営等
合計	174,900,000	167,571,013	

収入支出差額	総収入額 (B)	総支出額 (D)	収入支出差額 7,572,395円を千葉市に返還。
	175,143,408	167,571,013	

【参考】千葉国際芸術祭実行委員会 委員名簿(R8.4.1時点)

Nº	団体	役職	氏名
1	千葉市	市長	神谷 俊一
2	千葉商工会議所	会頭	佐久間 英利
3	千葉市文化連盟	会長	磯野 和美
4	公益財団法人 千葉市文化振興財団	理事長	穴倉 和美
5	公益財団法人 千葉市教育振興財団	理事長	深山 秀文
6	千葉市美術館	館長	山梨 絵美子
7	公益社団法人 千葉市観光協会	会長	足立 久男
8	千葉テレビ放送株式会社	代表取締役社長	青柳 洋治
9	株式会社千葉日報社	代表取締役社長	中元 広之
10	日本放送協会千葉放送局	局長	臼坂 光二
11	千葉都市モノレール株式会社	代表取締役社長	山元 隆司
12	国立大学法人千葉大学	学長	横手 幸太郎
13	株式会社千葉銀行	地方創生部長	小川 利幸
14	東日本旅客鉄道株式会社 千葉事業本部	本部長	三島 大輔
15	千葉市教育委員会	教育長	鶴岡 克彦
16	千葉市市民局	局長	市倉 秀子
17	千葉市経済農政局	局長	安部 浩成
18	千葉市会計室	会計管理者	橋本 欣哉

※順不同、敬称略